

2025年生まれのアユの資源状況

2025年生まれのヒウオ(アユ仔稚魚)の資源状況について、次のとおり評価をしています。

1. ヒウオ生息状況調査

【目的・手法】

網口1m×2m、長さ8mの網を、図1で示す水域(●)の深さ約7m層で約1km曳網し、採捕されたヒウオの数で生息量の水準を評価しています。

【調査日】 2025月10月22日、10月24日(1次)
11月14日、11月19日(2次)
12月15日、12月16日(3次)

【調査結果】

- 全調査水域のヒウオの平均採捕尾数は、第1次調査では45尾/曳網で平年値(133尾/曳網)の34%、第2次調査では46尾/曳網で平年値(68尾/曳網)の68%、第3次調査では11尾/曳網で平年値(19尾/曳網)の58%でした(表1)。
- 全調査水域のヒウオの平均体重は第1次調査で10.5mg、第2次調査で29.6mg、第3次調査で46.0mgと過去の同時期に採捕されたヒウオより小さい傾向がありますが、ふ化時期の遅い小型個体の頻度が高かったためと考えられます(図2)。

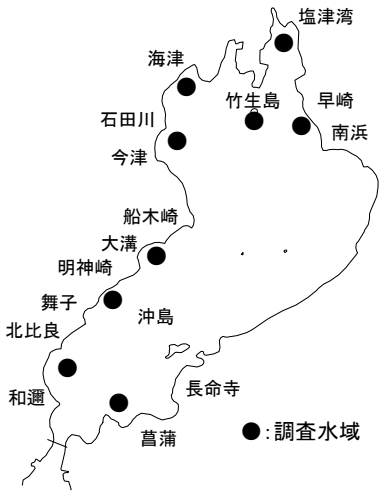


図1 生息状況調査水域

表1 ヒウオ採捕尾数の経年比較(尾/曳網)

	第1次	第2次	第3次
2015	769	70	14
2016	15	194	64
2017	50	6	3
2018	289	87	14
2019	52	70	20
2020	96	49	6
2021	332	431	179
2022	209	19	13
2023	17	13	2
2024	14	45	16
平年値	133	68	19
2025	45	46	11

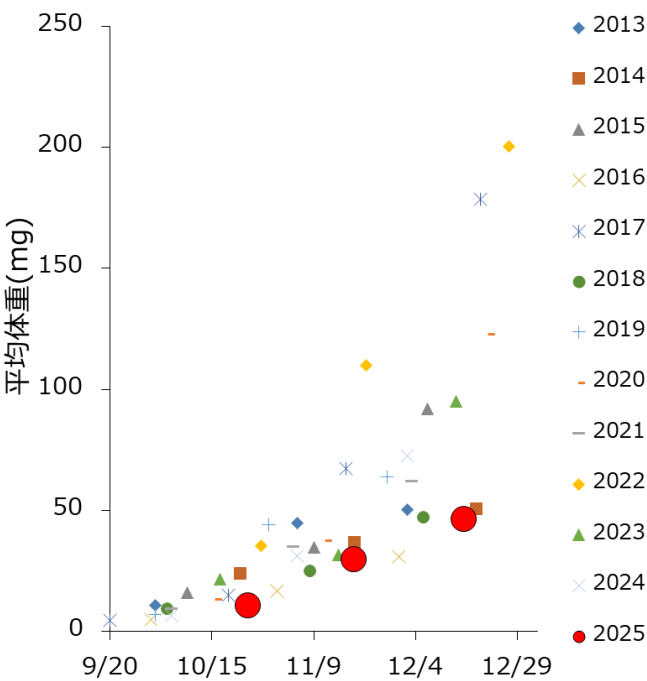


図2 調査日とヒウオ平均体重の関係

※平年値は2015年から2024年までの最大値・最小値を除いたものの平均)

2. ふ化日組成調査

【目的・手法】

生息状況調査と同様の手法で、図3で示す水域(△)の深さ約7m層(4水域)と深さ約15m層(中央2水域)で約1km曳網し、採捕されたヒウオから耳石を取り出し解析することで、ヒウオが生まれた時期を把握しています。

【調査日】 2025年10月3日、10月24日
11月4日、11月19日
12月1日、12月15日

【調査結果】

- 採捕されたヒウオのふ化日組成は9月16日～11月22日の範囲にあり、9月下旬と10月下旬に小さなピーク、10月上旬と中旬に大きなピークを持つなだらかな分布をもつ特徴がありました(図4)。
- 天然河川における産卵が10月にふ化をむかえる9月下旬から10月上旬に多かったことを反映していると考えられます。(表2、図4)。

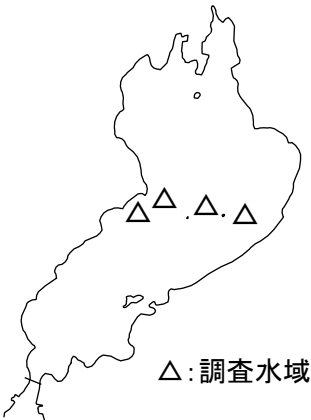
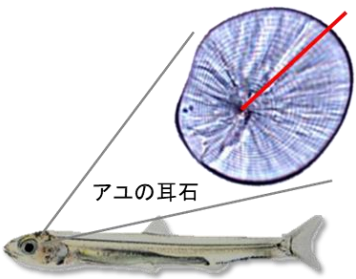


図3 ふ化日組成調査水域

表2 天然河川における産卵調査結果

	第1次調査	第2次調査	第3次調査	第4次調査	第5次調査	合計
調査日	8/25-8/28	9/8-9/11	9/22-9/25	10/6-10/9	10/20-10/24	
産卵数(億粒)	0	10.1	13.9	16.5	0.2	40.7
ふ化時期	9月上旬	9月中下旬	10月上旬	10月中下旬	11月上旬	

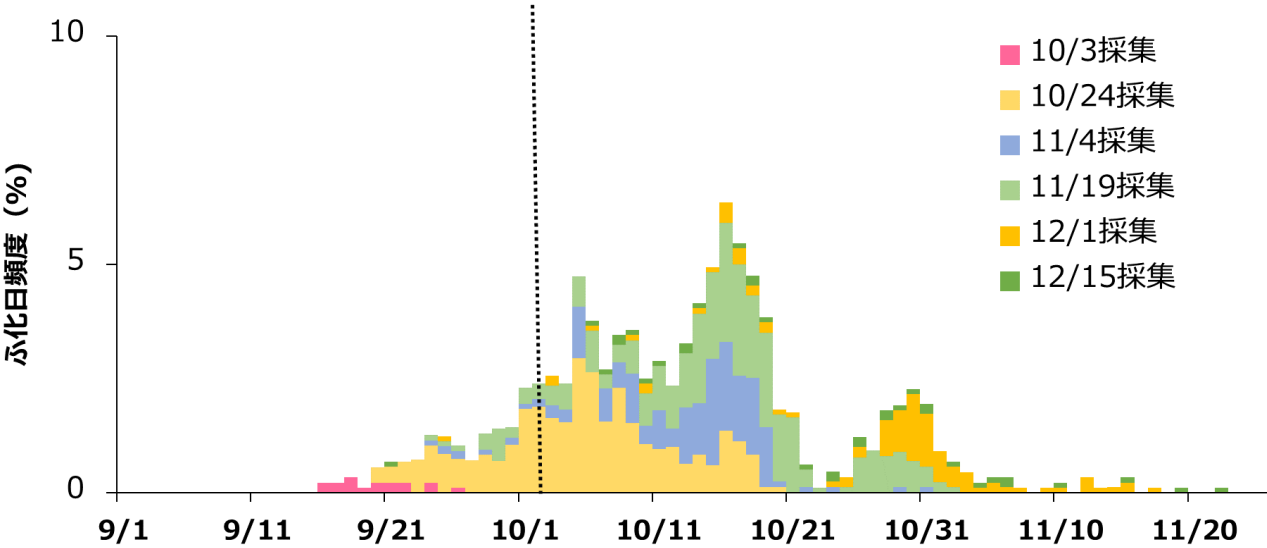


図4 採捕されたヒウオのふ化日別採捕尾数

3. 成育状況調査

【目的・手法】

12月に漁獲されたヒウオの成育状況を把握するため、北湖一円の6地点で解禁日(12月1日)にエリ漁で漁獲されたヒウオの体長と耳石日周輪間隔から1日あたりの成長量を推定しました。

【調査結果(図5)】

- 9月中旬生まれ、9月下旬生まれ、10月上旬生まれの成長速度はいずれも平年値を上回りました。
- 昨年、9月中旬生まれにみられた成育初期における成長速度の低下はみられませんでした。

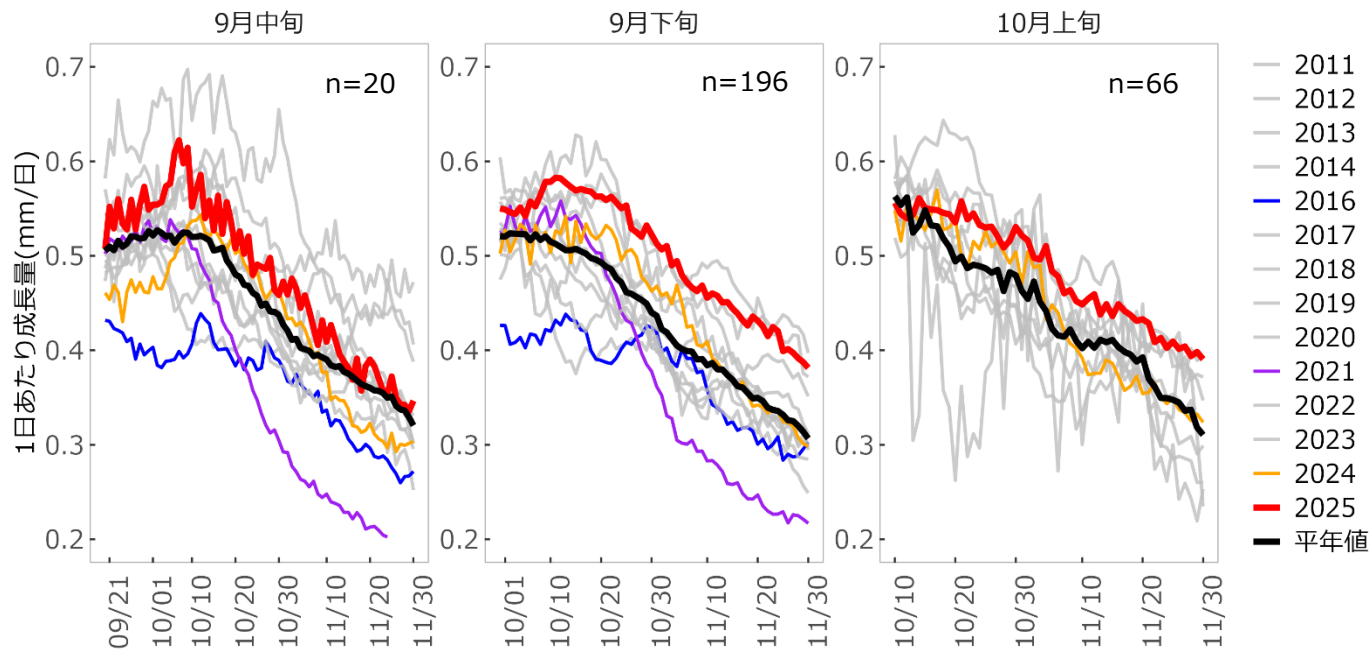


図5 解禁日エリ漁獲ヒウオの生まれ別時期別成長速度
※平年値は2011年から2024年までの平均